

なごや未来創造ワークショップ 開催報告

1 趣旨

名古屋市が目指すべき都市像や市民ニーズを把握するため、同一の参加者が4回に渡り継続的に参加し、目指す名古屋の未来像について活発で密度の濃い議論を行う市民ワークショップを開催しました。

2 開催日時・場所

日時	Day1	令和 4年10月17日(月)13時30分～17時30分
	Day2	令和 4年11月14日(月)13時30分～17時30分
	Day3	令和 4年12月12日(月)13時30分～17時30分
	Day4	令和 5年 1月16日(月)13時30分～17時30分
会場	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 社会連携ゾーン shake (名古屋市東区矢田南4-102-9)	

3 参加者

31名 (Day1 27名、Day2 29名、Day3 28名、Day4 24名)

4 内容

ワークショップは、参加者それぞれが「本当に解決が必要だと感じた名古屋の課題は何か」についてさまざまな手法を用いて考察し、共通点や興味のある課題を持つ参加者同士でチームを作成しました。

各チームでさらに議論を深め、参加者が思い描く10年後の名古屋の未来像を見据えた3年後・5年後の未来像を整理した上で、5年後の未来像が実現した日を未来新聞としてまとめ、発表しました。また、発表内容について有識者と意見交換を行いました。

<チーム名と“未来新聞”の見出し>

住めば都「キズナゴヤ」 「名古屋転入者全国トップに！」

QOL～土台から考える～ 「名古屋防災 No.1 都市へ」

NAGOYA Hub 「名古屋市、市民の声実現へ」

シン・名古屋走りブランディング～脱・デンジャラス名古屋～

「交通事故発生者数ベスト 20 突破！」

名古屋キラキラ化計画隊 NX(ナゴヤトランスフォーメーション)

「〇〇〇〇(海外有名アーティスト)名古屋に移住」

住めば都「キズナゴヤ」



<発表概要>

- ・名古屋は「安定志向で絆が強い反面、外から来た人がコミュニティに入りにくい」「暮らしやすいまちでありながら、日本を代表する三大都市のひとつとしての誇りを市民が持っていない」という観点から、内外にまちの魅力を伝えきれていない現状を課題に設定した。
- ・すでにある市民の絆を活かしつつ、市内外両面に向けてさらなる住みやすさや居心地の良さを生み出していくことを目指す。新しい施策を積極的に取り入れつつ、東海県の近隣自治体にまで波及する名古屋の魅力を打ち出し、絆や愛着を高めていくことを提言した。
- ・フェーズとしては、3年後までに市民がもっとチャレンジできる風土や仕組みを整備する。地域の特色をイベントなどで発信する。5年後には、市民の自己肯定感向上、名古屋の注目度アップを実現。移動手段の拡充で近隣自治体とのつながりを強め、東海地区全体を盛り上げていく。そして10年後に、「住みたいまちランキングで1位」を獲得。名古屋の誇りと絆を確固たるものにする。
- ・未来新聞では、「名古屋転入者全国トップに！」という見出しが掲げられ、移動手段の整備、他市町村との連携、子育て支援の充実などによって、名古屋生活圏の暮らしやすさが評価される未来を描いた。

<意見交換における有識者のコメント>

- ・「キヅナ」を「キズ」で区切って、名古屋に「キズ」を与えないと変わらないと考えても面白い。今の課題の根源をどう突破する施策を立てるか。名古屋の中にも多様なエリアがあるので、地域ごとに解像度を高めてもいいと思う。
- ・「誰が、なにをやるか」を明確にすることが大事。生活圏を大小の視点、両方で読み解くと面白い提案になる。「住みたいまち」「幸せ」とはなんだろうと考えさせられた。

QOL～土台から考える～



<発表概要>

- ・ QOL (Quality Of Life) すなわち生活の質を高めるために、土台にある安全安心な暮らしをいかに整えるかを課題とした。
- ・ 名古屋が防災において他の自治体のモデルとなることを目指し、ソフトとハード両面の対策を提示。ソフト面では、名古屋市独自の防災アプリの開発と普及、あるいは、学校のみならず職場などでの避難訓練の実施を提案。10 年後には、誰もが避難場所と移動手段を知っている状態にするとした。他方、ハード面では、避難所を増やす方策としての空き家の活用や、防波堤の建設などのアイデアを挙げた。
- ・ 未来新聞の見出しは、「名古屋防災 No.1 都市へ」。避難所の充実、流通システム確保、防災アプリの普及によって防災都市として高評価を受ける将来像を示す。

<意見交換における有識者のコメント>

- ・ 防災のリーダーとなる人を増やし、みんなで楽しみながら取り組めると良い。名古屋のエリアごとの特徴も踏まえ、地域間の連携という視点を持つと、より具体的なアイデアになると思う。テクノロジーと防災を掛け合わせたスタートアップの提案などもしていけると良いだろう。
- ・ 災害への備えは、各コミュニティにおいて日常的に醸成されるプロセスが必要。防災に限らず、地域で多面的に協力し合える環境を整えていけたら。モビリティを活用するなど、避難所の新しい作り方、名古屋ならではの防災のあり方を模索すると、可能性はもっと広がるのでは。

NAGOYA Hub



<発表の概要>

- ・ 多彩な文化を育んできた名古屋だが、一部の人にしか知られていないものもある。既存の文化の情報をどのように伝え、発展させることができるか。あるいは、新旧の文化を共存させながら、東海の顔としていかに魅力を広めるか。こうした点に注目して議論を行なった。他方で、生活する上で知りたい情報を容易に入手できないことがあるため市民の暮らしをより便利にするという視点からも情報発信について検討した。
- ・ 知りたい情報を必要とする人に届けられる情報収集・発信機能の拡充を目指し、チャットボットなどの仕組みを導入し、Web 上で蓄積された情報を誰もが活用できる案を提示した。
- ・ 未来新聞の見出しには、「名古屋市、市民の声実現へ」と 5 年後のニュースが描かれる。チャットボットや掲示板を利用した市民の声を集約。官民の連携が促され、課題解決につながるとした。フェーズとしては、3 年後、チャットボットでの情報集約を実現。5 年後には、市民の声をもとに行政と市民が共に課題を解決する。そして 10 年後には、名古屋のモデルが他市へと広まり、互いに有益な情報を取り込めるように。新たなツールによる変革を起こす将来像を提案した。

<意見交換における有識者のコメント>

- ・ 実は、自分のすごく身近なローカル情報ほど、手に入りにくい実態もある。ネット上だけでなく、リアルな空間で交わる仕組みも大切。
- ・ 分野できれいにまとめすぎると、自分の欲しい情報だけを得るようになる危険性がある。違う世界を覗き見る情報の重なりをつくる必要があるのでは。より多面的な情報と出会えると良い。

シン・名古屋走りブランディング～脱・デンジャラス名古屋～



<発表の概要>

- ・名古屋エリアのドライバーの運転を揶揄する「名古屋走り」という言葉がある。道路が広く走りやすいために、車の数も事故の件数も多く、運転マナーの悪さも指摘される。交通環境の改善を課題とし、ネガティブな運転のイメージと紐づく「名古屋走り」という言葉を、「安全に楽しくドライブできる名古屋」を想起させる「シン・名古屋走り」に変えようと考えた。本来は自動車が走りやすいように整えられた名古屋の長所を伸ばしつつ、短所を改善して、誰もがストレスなく移動できるまちを目指す。
- ・フェーズとしては、3年後に自動運転バスの導入、免許返納の促進、自転車ユーザーを増やし交通マナーを改善する独自の「自転車免許制度」といった施策を実現。5年後には、交通マナーが向上し、公共交通機関も拡充される。10年後に、自動運転車など多様な交通手段が選べるようになり、ネガティブな「名古屋走り」は過去のものとなる。
- ・未来新聞の見出しは「交通事故発生者数ベスト20突破!」。上記の施策によって、交通事故発生者が激減する将来像を描いた。

<意見交換における有識者のコメント>

- ・ネガティブな課題を改善し、ポジティブな魅力に変える発想が良いと思う。交通の分野は名古屋のポテンシャル。自動車に頼らない社会ができれば、道路や駐車場の多様な使い方も模索できるのでは。
- ・家の前や路地など、道にもっと注目してみて、歩き方の違いなど多種多様なアイデアをイメージできると良い。

名古屋キラキラ化計画隊 NX(ナゴヤトランスフォーメーション)



<発表の概要>

- ・ チームのメンバーのうち、名古屋にずっと住みたいと考えている人が少数派であった。住み続けない理由が出てくる背景には、仕事の選択肢の少なさ、閉鎖的な地域性や住む人の自己肯定感の低さなどがあるのではないかという課題意識のもと、住民自身が魅力を感じ、住み続けたいと思えるまちになるためのアイデアを検討した。
- ・ 住み続けたいまちを目指し、3年後を目処にスタートアップ企業のサポートに注力する。5年後、新たな企業が徐々に成長し、子どもたちが仕事の楽しさを体感できるまちに。経営者による講演も盛んに行われ、全国から人がやってくるようになる。そして10年後、活気づいた名古屋に世界のセレブがこぞって移住するように。名古屋がチャレンジしやすいまちになり、世界を変える人材の宝庫となる。この他、教育面では世界的なスクールの誘致、レジャー面では高級ホテルやリゾート開発などのアイデアも。仕事・教育・遊びなど多方面でレベルの高いコンテンツを揃える構想を提案した。
- ・ 未来新聞の見出しは「〇〇〇〇(※海外有名アーティスト)名古屋に移住」。

<意見交換における有識者のコメント>

- ・ この構想をみんなで実現できたらとても面白い。とはいえ、事業者のマーケットが名古屋になれば外に流出してしまうので、行政サービスの補完など社会的なビジネスを考える人を支援するのも良いのでは。
- ・ 「どうしたら名古屋に残りたい人、住みたい人が増えるか」を考えると、自分たちのまちへの誇り「シビックプライド」をいかに醸成するかにつながる。ひとつの土台となるのは、市民が自分たちでつくり上げる活動である。